

災害から身を守りましょう!



災害はいつ起こるかわかりません。

子どもたちをどう守っていくか…ではなく、子どもたちが自分の身を自分自身で守っていくための方法を正しく教えていくことが大切です。

危険ではないという心を打ち破る → 逃げる…という意志力を持つことが大事です。

火災

①自分の服に火がついた(キャンプファイヤー・花火・キッチン) さあどうする?

ストップ(止まる)・ドロップ(倒れる)・ロール(転がる)

火は走ると風を受け、ますます勢いを増すので、止まって地面や床に倒れ左右に転がりましょう。転がることで酸素の供給を断つことになります。



②部屋にいたら火事の気配が…まずどうする?

■ドアノブやドアに手の甲を付けて温度を確認しましょう。甲の方が熱を感じやすく、手のひらで行うとやけどをした時、物を持ってなくなります。もし熱ければ火が近くまで来ているということなのでドアを開けてはいけません。

■窓があったらシーツなど大きい布をみんなで振りましょう(1階なら窓から外へ)。

■窓がないときは煙が入ってこないようにドアの下の隙間を布などで塞ぎます。また、世界中の消防士さんたちが認識しているSOSの「コンコンコン」という音を、本など固いもので規則正しく出し続けましょう。

■「大丈夫ですか?」「誰かいますか?」という声を聞いたら初めて「助けて〜!」と叫びます。最初から声を出すと体力を消耗して助けを呼べなくなります。



避難バッグを見直してみましょう!

一番大切なものは命です。

グッズが充実していると安心ですが、あくまでも重量オーバーにならないように「**持てる・使える・助かる**」第1避難バッグを準備しておくの良いですね。

次に一時帰宅の安全が確認でき、いったん落ち着いてから取りに戻る第2避難バッグを準備しましょう。備蓄の延長で備えておくこともオススメです。

まずは持ち出しリストを作り必要性が高いものから優先順位をつけて第1避難バッグに入れましょう。

バッグの中身の一例です

ホイッスル 保温シート 簡易トイレ 懐中電灯
簡単に食べられる非常食 水 常用中の薬のほか、
乳幼児の年齢によって必要なもの一式

